

田中 くるみ

Tanaka Kurumi

国税専門官 2018年採用

調査査察部 査察部門

脱税という巨悪を見逃さない 責任感と使命感

Question

1 現在の仕事内容について教えてください。

私は、国税局の査察部門に所属しています。いわゆる「マルサ」と呼ばれるこの査察部門は、申告納税制度を維持し、課税の公平性を確保するため、悪質な脱税者に対して、懲役又は罰金といった刑事責任を追及することを目的とした特別な調査を行っています。

査察調査は通常の税務調査と異なり、強制調査を行います。脱税の疑いがある者のあらゆる情報を調べ上げ、裁判所から許可状を得て、対象者の自宅や事務所等を一斉に搜索します。その後、差し押さえた証拠物件等を基に脱税の事実を検討し、検察官へ告発します。一見すると華やかではありますが、地道で綿密な事務の積み重ねと緊張感が求められる仕事です。



絶対に不正を見逃さないという強い責任感と使命感を持って日夜職務に従事しています

Question

2 仕事をやる上で意識していることはありますか。

査察部門は、申告納税制度を維持する最後の砦として、唯一強制調査を行う権限を与えられ、膨大な時間と労力をかけて脱税の告発へ向けて調査を行う部署です。最後の砦である査察部門が不正を見逃しては、適正・公平な課税を実現することはできません。

査察部門の重要性を認識し、絶対に不正を見逃さないという強い責任感と使命感を持って日夜職務に従事しています。

Question

3 工作上、印象に残っていることはありますか。

印象に残っていることでもあり、現在でも感じていることが担当の垣根を越えた部内の組織力です。

査察部門は、内偵調査等を行い、裁判官に対し許可状の請求をする情報担当と、許可状に基づく強制調査や、最終的に検察官に告発する調査担当に分かれています。強制調査の際には担当の垣根を越えて情報担当と調査担当が協力して搜索や差押等を行います。

強制調査の現場は強い緊張感がありますが、先輩方の冷静な判断力や困難な事態に対応する姿を間近に感じながら、いつか自分もこうなりたいと、日々自己研さんに努めています。

先輩方の姿を間近に感じながらいつか自分もこうなりたいと日々自己研さんに努めています



Message

国税専門官はとても専門性の高い仕事です。私は税務の職場に入るまでは、税法や簿記会計学の知識が全くありませんでしたが、専門知識を習得するための研修体制が十分整備されており、上司や先輩方の丁寧な指導のおかげで安心して仕事に取り組むことができました。

国税の職場は明るく、団結力、チームワークがあり、常に組織が一丸となって仕事をしています。大変だと感じることもありますが、やりがいや達成感を感じることでできる職場ですので、ぜひ国税専門官、そして最終的には国税査察官を目指してみてください。